

人生を拓く

58

菱事米男さん(82)

ユリ子さん(82)
北町2丁目

米男さんは、岩手県久慈市出身。旧徳川幕府・南部藩の家老家筋の家系。菱事家は600年の所領林を有していました。現在は兄(95)が8代目を継いでいるそうです。父豊治さん(94歳没)、母スエさん(同)の9人兄弟の3番目として九戸郡久慈町大川目(現久慈市)で生まれ育ちました。

父は軍馬調教の名士と言われ、当時騎兵学校、通信学校の教官でした。厳しい名門家で、長男でないためひどくえこひいきを受けて育ったそうです。

「勘当されれば家を出られる」と考え、中学生の時、全校生から飯米を持参させて売りさばき家出資金稼ぎ。傷害騒ぎで計画通り勘当を受け、18歳で渡道しました。旧国鉄青函連絡船、洞爺丸が沈没した台風15号(昭和29年9月26日)から10日後のこと。

札幌駅に着くなり、風体の怪しい男に「兄ちゃん、どこ行くの?」と声を掛けられ、「飯を食わせてくれ」と、

その足で当時日本屈指のサーカス団・キグレサーカス(本拠地・札幌)へ。風呂焚き、仁義の切り方、半球の金網の中を走る8の字オートバイ走法などサーカス人生を教わり、札幌・狸小路界限で青春を謳歌しました。

サーカス団が解散すると



(その後再結成、廃業)、24歳で旭川に。バナナの叩き売りを経て、土建業の藤田組(東川)、鈴木組(旭川)に。この間の1964(昭和39)年、知人に勧められ、鷹栖町の農家の四女だった同じ年のユリ子さんと見合い結婚しました。

しかし生活はいつときも落ち着かず、旭川の青果会社でトラック運転中に交通事故で生死をさまよう大事故に。入院先の病院長の紹介で、34歳でフィルムメーカー関連会社の神奈川県小田原工場に転職すると、今度は一転「小田原―静岡」間の箱根ニューイヤーマン参加でも出場することに。

住時には個人参加でも出場することに。次に勤めた栃木県の製茶販売会社では2度目の交通事故。骨が飛び出す左足複雑骨折で、「飛び出した骨を自分で拾って足に入れ直した」と、歩行不全の後遺症が心配されたほどの大けがも。

ところが事故2カ月後には歩き出し、退院してLPガス会社で再出発する頑強さ。さらに久慈市の実家で高齢の両親を10年間介護し、2004(平成16)年、二人は69歳で門出の地・東川に戻ったのです。

波乱万丈の半生を乗り越えてきた二人。今は「バラ色の人生だった」と日々をかみしめています。

俳句

前向くか背を向けるのか雪だるま

東京を一日歩き初桜

若冲の鶏冠びくりと大寒波

父母の寝息を消すなもがり笛

少女の声の少しくぐもり追儺の夜

待つ黒のパイプ椅子不安な夜寒

国鉄人生五十三年冬木立

そこかしこ無月の夜明け垂り雪

あかちゃんにはほすり寄せて日向ぼこ

氷瀑やオズの魔法のエメラルド

ジュークボックス凍れる星の空回り

寒雀群れに遅れし一羽かな

万葉の恋と飛び交う歌留多会

ペンギンはまだかまだか赤い毛糸帽

日脚伸び米寿の椅子に夫の笑み

こばやし 星来

横田 則子

高瀬 潤

三島 智

若田 郁

佐々木 りえ

本田 咲

斎藤 夕桜

山内 みゆ

八田 昌代

小林 ろぼ

石澤 清宏

杉山 ひろのり

保科 なほ

杉山 りつ

